

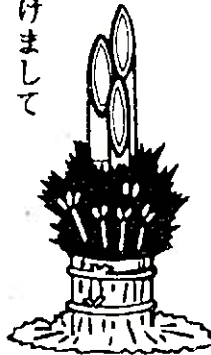
ひろば大代

NO.186

大代公民館

年頭のご挨拶

公民館長 渡 吉正



新年 明けまして

おめでとう

ございます。

謹んで新春の御祝辞を申し上げます
皆様方にお揃いで、よき新年をお迎
えの事と心よりお慶び申し上げます。

昨年の大代町は歴史的に大変革の年
でした。それは四十八年に渡って築い
た学問の殿堂大代中学校を第三中学校
への統合を決議し、市へ要望書を提出
したことです。そして市はこれを受け
て十二月十九日市議会本会議へ議案を
上提して統合は議決されました。

本年三月末を期に大代中学校は閉校
となります。誠に寂しいことです。
今年中学校舎跡地利用問題や中学

生の通学路整備の問題など山積みした
諸問題を皆さん方と話し合いながら解
決して行かなければなりません。

昨年にお寄せ頂きましたご厚情やご
協力に対しましては心から感謝申し上
げます。

さて、今年の公民館事業としまして
最たるものに「第十回都市交流会」が
あります。この回を一つの節目と考え
て会のあり方をもう一步前進して行き
たいと思っております。第十回の会は
今迄にない盛大なものにするため、皆
さん方一人一人がよきイベント（催物
）を考察して下さいをお願いしま
す。

次に昨年六月号から「ひろば大代」
へ掲載しております「戦時体験記」を
一つの文集にまとめて記念出版したい
と思っております。それは今年が太平
洋戦争が終わって五十周年に当るから
です。引き続き皆様のご投稿をお待
ちしております。

紙面の都合上他の事業についてはそ
の都度掲載しますので割愛します。
今年も公民館事業にご協力下さいま
すよう宜しくお願い申し上げます。

新年を迎えて

連合自治会長 高村 貢



町内外の皆様、明けましておめでと
う御座居ます。

昨年は大代町も中学校統合などの諸
問題を抱え、今年はそのらの問題を皆
さん方の御協力を仰ぎながら、きちん
と解決しなくてはなりません。

- 一、通学に関する事（通学バス路）
- 一、跡地利用について
- 一、閉校行事について

など皆さんと話し合いながら進めてい
きたいと思えます。

そして小学校改築につきましても土
地確保はだいたい終了し、今年は造成
に入ると思っています。

又都市交流会も十回目にあたり記念
行事もあります。心を込めて皆さんを
お迎えしたいと思っておりますので一
層の御協力をお願いし、今年一年が健
康で楽しい一年であります様お祈り申
し上げます。

新年御挨拶

東京石見高山会々長 田中憲経

新年明けましておめでとうござい
す。お健やかに新しい年をお迎えのこ
ととお慶び申し上げます。

東京石見高山会は、昨年創設十周年
を迎え、去る十一月六日第十回総会・
懇親会を開催いたしました。大代町よ
りのご出席者と一緒にご上京いただき
ました大江高山神楽十七名の皆さんに
よる懐かしい神楽の熱演に、百人を越
える出席者は故郷に思いを馳せて感動
のひとつときを過ごすことができました。
心から厚く御礼申し上げます。

この数年わが国の政治、経済、社会
の状況は全般的に停滞を脱しきれず、
ぱっと気持ちの明るくなるような出来
事は残念ながらめったにありません。
今年も亥年、猪突猛進とまではいか
なくとも、夢と希望に満ちて前進する
年にしたいものです。それにつけても
町の活性化促進のため、郷里の皆様と
私たち故郷を離れて住む出身者の連帯
を、さらに強く深いものにしていか
なければならぬと思えます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上
げます。

新年に思う

寿会々長 竹本浅市

明けましてお目出度うございます。
昨年ほど有る度に終戦五十年と言
う言葉を聞きました。思えば本場に戦
前戦後の御苦勞は目に余るものが有り
ました。

特に農家は増産／＼で力一杯働いて
来ましたね。現在の寿会々員が二十代
〜三十代の年齢でしたから、村の中心
で何事も進めていきました。私も地区
役員（当時下谷）を始め、その後町内
の何かの役員を命ぜられて、今日まで
一日も休まず続けて来ました。

いつの間にか、あつという間でした
本場に早いものですね。其の間に農林
大臣（宇野）県知事（伊達）近摩郡農
会長（臼井）市長（石田・熊谷）と賞
を頂き、昔を思い出します。

然しながら今はもう心身ともに疲れ
を感じています。早や皆様と行動は無



理でしようが、でも体を大事にして少
しても長く皆さんと会話の出来るよう
我家で頑張る積もりです。

皆様のご健康を御祈り致します。

新年のご挨拶

婦人会長 後藤マサエ

婦人会を代表して新年のご挨拶をさ
せていただきます。

平成七年を迎え皆さんおめでとうご
ざいます。

大代婦人会が誕生して満四十八才が
過ぎ四十九才目に入ります。連綿とし
て今日迄よく続いたものだと思ふ心を
打たれるものでございます。

私も戸籍年齢七十一才にならせてい
ただきました。

教職を去り二十三年、又皆さんとの
出合いを誘っていただき入会して十七
年。大病を病んで（膀胱腫瘍）十三年
おかげさまで今日生かされています。

高山の自然に抱かれ翠の香をいただ
き、この美しい恵みに感動し感謝でき
る日を一日も永く、みなさんといっし
よに味わい生きぬきたいと念じており

ます。

又本年は町として交流会十周年の年でもあります。いざれ行事もあるうかと存じますがその節はよろしくお願ひ申します。

新年を迎えて



雑感

小学校々長 布野伸一郎

一八年ぶりに再度大代小学校勤務を命じられ、あつという間に一学期が過ぎ、二学期が終わり、新年を迎えております。

明けましておめでとございます。旧年中は大代町の皆様の暖かいご支援のもと、気持ちよく勤務させていただきました。一八年前に勤務したころの思い出がそこに残っており、懐かしく初心に振り返っておるところです。

さて話は変わりますがちょっと前に読んだ話を紹介したいと思います。

なぜ卵は同じころに相談したように孵化するのか、もしばらばらに孵化したらどうなるでしょう。早く生まれた

雛か、遅く生まれた雛かどちらかが死ぬことになりまます。声を出すことのなれと思われ卵の時から生きるために気持ちや伝えあっているものと思われのです。そして一斉に孵化するのでしよう。

うぐいすが親の鳴き声を聞かずに成長したらどうなるのでしょうか。

「ほーほけきよ」と鳴けないうぐいすになってしまふのだそうです。親の声を聴きながら育つてはじめてうぐいすはうぐいすらしく育つのです。

改めて語りかけることの大切さを感じさせられました。

登校拒否、いじめなど緊急に解決しなければならぬ問題が山積している今、語り合うことの大切さを痛感しています。幸い本校では登校拒否、いじめなど深刻な問題は見られません。地域の教育力の賜物と感謝しているしだいです。

地域、家庭との語り合いのもと、さらによりよい子供たちの成長をめざしていききたいと思ひます。

学校としても開かれた学校をめざしています。どうぞお気軽にお立ち寄り

ください。
本年も皆様の暖かいご支援、ご指導をよろしくお願ひいたします。

乙亥の年を迎えて

山田 渡 淳

関東大震災の年に浜田で生まれて以来、満州事変、二、二六事件、日中事変、第二次世界大戦、大東亜戦争、原爆投下、終戦、戦後の混乱期、東京オリンピック、万博、高度成長路線の暴走、やがてバブルがはじけて底成長期、ソ連崩壊と冷戦の終焉、そして戦後五十年目、良くも、大正、昭和、平成の三代にわたる激動の時代を過ごしたものと、年頭に当り感慨深いものがあります。

「明日ありと思う心のあだ桜、夜半に嵐の吹かぬものは」 この歌は、空襲相つぐ戦争末期、特攻隊として軍務に服し日々実感したものでしたが、七回目の亥年を迎えて、再びこの歌が身にしむ高齡の仲間入りをして、貴重な一日一日を大切にしたいと思う昨今です。

平凡ではありますが、美しく老いる為に次の事について一つでも心掛けたいと思います。

年を取り病を得て一人での行動が増え行動範囲を狭めてしまふ。多くの人と交流を持ち刺激を受ける為にも外に積極的に出かけるように心掛けたい。

一日一日ささいなことでも見逃さず感動すること。何事も一期一会と感動の心をかきたてよう。町に山に野に演劇に美術館に、見聞を広め好奇心を奮い起こしたい。

野菜作りや盆栽の趣味も大切なこと一生続けられる趣味も持ちたいものである。

笑うことが身体の免疫力を高め健康に効果がある。新しい出会いや話の輪に加わり笑うチャンスをつくりたい。

婦人会だよりに、食生活が豊かになり、肉体年齢は実年齢の八掛けが相場となっていると書かれていました。

老け込むのは早過ぎる。いつまでも若さと生きる意欲を持ち続けたいものです。

老後の社会はお互い助け合い、「ありがとう」が素直にいえる感謝の生活

を心掛けたいと思います。
桜が散らぬよう健康第一、多幸な一年であることを念じながら……。

猪突猛進!

本郷 曾根 登



新年明けましておめでとうございませす。私は亥歳生まれで今年還暦を迎えます。人生節目の年だそうですが、私にはごく自然に時が通り過ぎたようにも思われます。

振り返れば、幼年期は、はだして魚釣りに明け暮れ、少年期は都会に憧れて上阪し就職し祖母の計報し病氣りタイヤく父の計報し結婚をし、三人の男子に恵まれて帰郷、母の計報しそして今では三人の子供も就職をして巣立ち、年末ともなれば正月休みで帰省する子供を待ちわびる親バカ人生。

病氣や悩み、喜びの数だけ悲しみ、苦しみもありましたが、きっと私の人生の節目はあとからついて来るのかもしれない。

今年も猪突猛進! 自然にまかせてがんばるぞ!

「大家バイパス」の早期実現を!

大代交安協会会長 市原仁郎

去る十二月十二日、県道大田桜江線期成同盟会で大田市と県大田土木へ陳情を行いました。その際、大代町の交対協、交安協、連合自治会の各会長連名で「大家バイパス」の早期実現の為の陳情書を同時に提出しました。

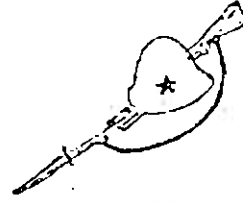
熊谷市長は「この問題はダンブ問題とも関連し、ふれあい市民の集いでも出ており、市としても重点要望事項の中に位置付け県と接渉している。引き続き努力する。」と表明。

大田土木の桜工務課長は「大家バイパスについては現在調査費(測量・設計費)を本庁に要求。来年三月にならなると決まらない。決まり次第仕事にかかりたい。」との事だった。

又佐藤所長は「祖式く大代間の改良工事の根本的な案は未定であるが、地元より用地提供も含めて良い案があればどんどん提示して貰いたい。地元

協力があれば早く良い道が出来ることになる。」との発言があった。この問題の実現に向けて最後まで頑張りたいと思っています。

「戦時体験記」



「陸軍少年飛行兵」

時代の想い出

松江市 市原宗夫

望み望んで昭和十九年四月十三日、大津陸軍少年飛行兵学校へ入校し、陸軍生徒を命ぜられ少年飛行兵第十八期生となる。(十四才)

風光明媚な琵琶湖畔、長等山のふもとで少年飛行兵の基礎教育として普通学(国語、数学、歴史、物理、図工など)、軍事学(地形、兵器、服務、典範令など)、および訓練(各個人教練、戦闘教練、剣術、体操など実科)に

精魂を傾け、日夜精勵した。

昭和二十年三月二十二日卒業し、三月二十五日に上級校に向け出発した。到着した所沢陸軍航空整備学校は「紺第五六〇部隊」と称され、少飛のほかには特操、特幹、応召兵などがおり、少飛の上級校としての感じは全くなく、本土防衛の一翼を担う臨戦体制下の部隊として騒然としていた。日本最初の飛行場と言われる周囲十六キロ(三六〇ヘクタール)の飛行場が広がり、隼飛鷹、新司偵、九七重、百重、飛竜、九九双軽などが配備され、エンジンの音が轟々と響きわたり、学校というよりも正に戦闘隊という感じでわれわれの胸は圧倒されるとともに、必勝の意気に燃え、高鳴りを覚えた。

曙光隊、精華隊、竜虎隊、千歳隊、扶桑隊、桜花隊などの各中隊に分かれて配属され、所属隊により電気班、計器班、発動機班などの専門教育が実施されることになり、分厚い教材の教程が支給された。私は桜花隊に配属された。この桜花隊は機上機関の中隊であり、重爆に乗れると胸をふくらませるとともに米國ワシントンへ爆弾を落

とせるぞーと大きな夢を描いたものである。

朝の点呼時に先輩十七期生が上官に竹刀でなぐられ、頭から血を吹き上げ竹刀も割れた。これはすごいなあーとぞっとした。点呼時に整列し両足が六十度を開いてそろっているか、どうかを班長にチェックされ、そろっていないればビンタの雨が降る。私は右足が少し後に下がるくせがあったので、毎朝ビンタをくらった。目の測が青くなつたが、いつしか両足がきっちりそろうようになった。下士官学生上りの班長はとくに厳しかったが、班付兵長の先輩(十五期生)は何かと心配していろいろ教示して頂き、つくづく感謝したものである。

所沢に来て感じたのは、苦しいと思っていた大津少飛校と所沢を比較すれば、大津は全くの温室のようなものであったと思ひ知らされた。飛行場上空では特攻訓練が連日実施され、地上の赤い吹き流しを目標に急降下し、上昇、また突っ込んで急上昇を繰り返す。緊迫した雰囲気であった。

二十年三月十日のB29百三十機によ

る東京大空襲、三月二十七日流黄島守備隊の玉砕、四月一日米軍沖繩本島上陸、四月七日不沈戦艦と言われた超大型戦艦「大和」(五万トン)は、米軍機の集中攻撃を浴び爆弾十二発、魚雷十三本を受け、大爆発を起こして沈没、三千三百人余の乗員の大半は戦死し、戦局はいちじるしく悪化した。

四月十八日の東京空襲を境に、ここ所沢にもグラマンやP51(艦載機)の銃撃があり、高射機関銃の銃座がいくつも並び、対空射撃班が編成された。ある日、飛行場の西端に蚊のような群れをなした機影が見えた。タコつぼへ鉄帽をかぶり九九式小銃を持って飛び込んだ。

数秒後P51が十五メートル程前方に見えた。敵機の操縦士の顔が見える。小銃を必死に構えたとたん、私を目がけて銃弾がダーダーと射ち込まれ、眉をかすめた。一瞬やられたと思つたが、無傷だった。九死に一生を得たわけである。

その日は五十機程度の空襲であったが、機銃掃射や爆撃により戦死者もかなり出た。戦死者の赤い血を見始めた

のもこのころからであり、毎日機銃掃射や爆撃に悩まされる日が続いた。相次ぐ空襲で兵舎での起居は困難となり、格納庫や兵舎を解体し、飛行場周辺の武威野の山林を切り拓いて解体した材木を農家の牛車を借用して運搬、慣れない手つきで大工のまねをして三角兵舎を建てる作業に明け暮れる日々が続いた。

六月十日に陸軍上等兵になった。この時はなんだか一人前になったように嬉しくて仕方がなかった。部隊では年上の一等兵や二等兵が沢山いたので敬礼されて面映ゆい気分であった。

六月末、盛岡分遣を命ぜられ三個中隊が、途中敵機の銃撃を受けながら盛岡市郊外厨川の戦車隊前にある兵舎に入った。盛岡は昼は猛烈に暑く、夜は急速に冷え込むという土地柄であった。所沢で書いた遺書や遺髪などは肌身に所持しており、常時戦場の行動であった。岩手山(南部富士)のスロープ、青いリンゴ畑、馬の群れ、戦車のキヤタピラの音などが今でも脳裏に残っている。

盛岡で始まった訓練は完全軍装で、

疑装網をつけ地上戦闘要員としての猛訓練が連日、厨川周辺で行われた。

ある日、班付兵長から「日本に新しい兵器が開発された。胴体がベニヤ板で前半分は火薬が詰められ、尾部は口ケットが付いている。お前らはそれに乗って征くのだ。十月ごろ北海道の帯広の戦隊で訓練する予定である。」と伝達された。

珍しいものに乗るんだな—と思っていたが、復員していろいろ話を聞いてみると、沖繩決戦において海軍が出撃した人間爆弾「桜花」のことであった。(桜花とは……木製小型飛行機で搭乗者は一名、機首には百二十キロの爆弾が装置され、胴体には三個の口ケットがあつて、母機から離れて滑空と口ケットにより大体水平距離二十マイルの飛行が出来た。)

八月六日広島に原爆が投下され、八月十五日終戦の詔勅をラジオで聞いたが、雑音が多く聞き取れ無かった。二十三日復員命令により盛岡から東京まで貨物列車で、東京からは普通列車で島根に帰郷した。

日本の航空発祥の地である埼玉県所沢飛行場跡の所沢航空記念公園（五〇ヘクタール）に建立された
陸軍少年飛行兵「健児の塔」



新年俳句

あすなろ句会

まっさらの初日 茜に障子染め
子と囲む 雑煮の膳や難波路に

下谷 尾崎三枝子

あらたまの鶯 輪を画かく大御空
豊目に 日矢射し入れて福寿草

下市 渡 あやこ

中天に 昼月うかべ山眠る
すがすがし 庭に啄む初雀

上飯谷 武田島子

髪染めて 若返りたる初鏡
初鵝 去年の芥を啄めたり

柿田 横手いちえ

元旦の 意義はテレビと手杓酒
半年の 先の希望まで初暦

椿 花田時子

元旦や 常のごとくに厨事
統合と 決まりし校舎初日影

椿 柿丸寿枝

初詣で 心身清まる石清水
初走り 生徒のかけ声や朝静寂

八反田 森 信子



一月の行事予定

◆ 8日(日) 消防出初式

◆ 14日(土) 婦人会役員会

◆ 14日(土) 寿会役員会

◆ 14日(土) 婦人会コスモス役員会

◆ 15日(日) 新年子供将棋大会

◆ 17日(火) JA健康診断

◆ 21日(土) 連合自治会

◆ 1日(日) 幼小中合同家庭教育

研修大会(公民館於一時)

演題「大代町の中世について」

講師 公民館長 渡 吉正氏

◆ 22日(日) 福祉弁当

◆ 29日(日) 記念講演 田中公道氏

サンレディ大田午後一時

★——★おしらせ★——★

◎大代公民館より

東京 渡 俊則 様

金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。

◎社協大代支部より

上市 松島良範 様

下市 大崎 徹 様

それぞれ香典返しに替えて金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。

◆◆ 消 息 欄 ◆◆

十二月に亡くなられた方

上市 松島定範 様

下市 大崎 貞 様

ご冥福をお祈り致します。